蛇田地区復興公営住宅等の孤立防止事業

石巻・蛇田のより処

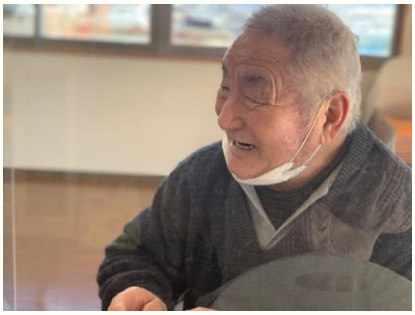
まざらいん

活動報告書

『 気にかけ合い・支え合う地域づくり 』

2021（令和 3）年 3 月

特定非営利活動法人 全国コミュニティライフサポートセンター



活動写真

もくじ

第1章　事業概要……4

1. 開設の経緯……4
2. 事業目的……5
3. 事業の背景……6

第2章　活動地域……10

1. 蛇田地区復興住宅マップ……10
2. 活動地域　～復興住宅ごとの情報～……12

第3章　活動実績……17

1. 活動概要
   つながりづくりの支援・支え合いの推進……17
   気になる人の支援……20
   支援関係者とのネットワークの強化……20
2. 活動別実施実績……21

第4章　コロナ禍における見守りと気にかけ合う働きかけ……28

1. コロナ禍における見守り……28
2. 気にかけ合う働きかけ……29

第5章　総評・まざらいんの活動について……30

1. 蛇田地区復興住宅の支援から見えてきたこと……30
2. 有識者からの提言……32

巻末資料……33

1. 蛇田地区住民からのメッセージ……33
2. 蛇田地区関係機関からのメッセージ……36
3. まざらいん情報紙……38

第１章　事業概要

１．開設の経緯

「石巻・蛇田のより処 まざらいん」（以下、まざらいん）は、NPO 法人全国コミュニティライフサポートセンター（以下、CLC）が、2018 年（平成 30）年 4 月、石巻市福祉部福祉総務課より「孤立を生まない地域づくり事業」を受託した。

この事業は、蛇田エリアの復興公営住宅において、人や地域をつなげる「つながりづくりの場」や住民同士の支え合う地域づくりの大切さを学ぶ「学びの場」を提供したり、生活の課題を抱えている「支援が必要な人への支援」の３つの取り組みを、各種支援機関との調和を図りながら行い、孤立化や閉じこもりを防止するものである。2018（平成 30）年 4 月 25 日に石巻市向陽町の市営住宅内に事務所を設置。2019（平成 31）年 4 月には、蛇田新西境谷地の一軒家に移転し活動を行った。

この事業受託の背景には、震災後の 2011（平成 23）年 12 月 27 日から 7 年余「地域での暮らしを継続していくための支援」を心がけてきた「石巻・開成のより処 あがらいん」（以下、あがらいん）の経験を活かすという理由もあった。

あがらいんは、「地域に関わる事業」と「緊急一時生活支援」の２つを柱に、制度外福祉住宅として、制度の対象から漏れた、援護や支援が必要な被災者を対象に、住居と生活の支援を行ってきた。

この活動経験をもとに、蛇田地区の復興公営住宅等の住民が、地域の中で孤立せずに生活が営めるよう、集会場等でのサロン活動や勉強会、コロナ禍においては、蛇田地区の復興公営住宅への全戸訪問をとおして、地域住民のつながりづくりを行った。また、新西境谷地への事務所移転後には、緊急一時的に生活支援が必要な人の受け入れも行った。

向陽町 事務所外観
（2018 年 4 月～2019 年 3 月）

新西境谷地 事務所外観
（2019 年 4 月～2021 年 3 月）

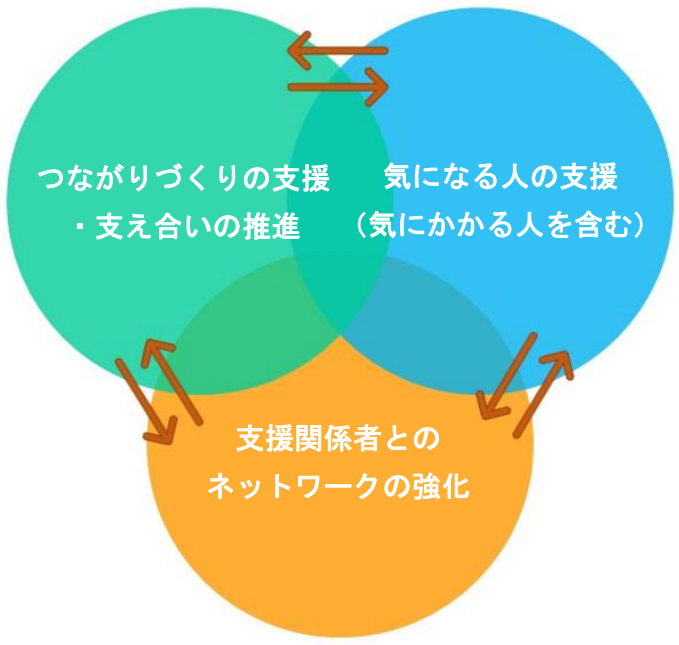
２．事業目的

応急仮設住宅から復興公営住宅への転居が行われ、新たなコミュニティが形成されるなか、新しい生活に馴染めない住民の孤立が予想された。

まざらいんの活動は、蛇田地区の復興公営住宅等の住民を対象として、新しい生活を営む住民が、地域の中で孤立しないよう、既存の公的支援機関や各福祉サービス事業所等、地域の社会資源と連携・協働して、地域のつながりづくりを行ってきた。

目的達成のために、「つながりづくりの支援・支え合いの推進」「気になる人の支援（気にかかる人を含む）」「支援関係者とのネットワークの強化」を３つの柱として活動した。

まざらいん 活動の３つの柱



なお、具体的な活動場面においては、自治会・団地会や支援機関等と連携・協働しながら進め、常に多方面への配慮を心掛けて事業に取り組むものとし、事業に関することは、常に福祉総務課および関係機関と共有しながら進めるものとした。

３．事業の背景

まざらいんは、東日本大震災発災後に活動した「東北関東大震災・共同支援ネットワーク」や、開成仮設住宅団地内で活動した制度外福祉仮設住宅「石巻・開成のより処あがらいん」の取り組みを継承する形で、活動してきた。

①「東日本大震災」発災後のあゆみ

【活動年表】

避難所期支援

2011 年 3 月

宅老所・グループホーム全国ネットワークや、特養・老健・医療施設ユニットケア研究会、そのほか地域づくり団体など 38 団体で構成

３月１１日 東日本大震災の発災

３月１３日「東北関東大震災・共同支援ネットワーク」の発足
本部事務局を「国見・千代田のより処ひなたぼっこ」に設置

３月２０日 石巻現地事務局を、高齢者福祉施設「社会福祉法人東北福祉会せんだんの杜ものう」に開設

2011 年 4 月

４月１日 石巻現地事務局を「石巻市桃生公民館樫崎分館」に移転

仮設住宅期支援

2011 年 12 月

１２月２７日 石巻市開成仮設住宅内に「石巻・開成のより処あがらいん」を開設
石巻現地事務局を「あがらいん」に移転

2018 年 3 月

３月３１日 仮設住宅の閉鎖に伴い「あがらいん」を閉所

復興住宅期支援

2018 年 4 月

４月２５日 石巻市向陽町の市営住宅内に「石巻・蛇田のより処まざらいん」を開設

2019 年 4 月

４月２５日 「まざらいん」の事務所を、新蛇田西境谷地の一軒家に移転

2021 年 3 月

３月３１日 「まざらいん」を閉所

②「東北関東大震災・共同支援ネットワーク」の取り組み

東日本大震災の被災地に法人本部を構えるCLCは、震災直後の2011年3月13日に、被災地の社会福祉法人や、全国の福祉関係の施設や団体、大学などと協働する「東北関東大震災・共同支援ネットワーク」を立ち上げた。

被災された方々の生活を支えるため、インターネットや全国紙で全国に呼びかけて、介護や看護の専門職ボランティアを募集し、登録いただいた方々と、活動先である高齢者や障害者福祉施設、病院、避難所などとのコーディネートに取り組んだ（～2013年12月31日。登録者1,761人、延べ18,567人／日（実員数1,149人）が活動、派遣拠点32ヶ所）。

仙台市に本部事務局を設置し、介護・看護の専門職ボランティアのマッチング、全国からの物資支援、提供自動車のマッチング、地域支え合い活動・情報交流センターの開設・運営等を行い、石巻市には、現地事務局を設置し、石巻市・気仙沼市・南三陸町・女川町・東松島市への介護・看護の専門職ボランティアのマッチング・物資支援、公民館分館でのサロン、台所・洗濯機の貸し出し、仮設風呂などの運営、ボランティアの宿泊場所・食事・送迎の用意、協働団体による活動等を行った。

石巻現地事務局外観
（元桃生公民館樫崎分館）

仮設風呂

石巻の現地事務局は、2011年3月20日に、石巻市桃生地区にある高齢者福祉施設「せんだんの杜ものう」に間借りし、4月から「元桃生公民館樫崎分館」に拠点を移し活動を行い、2011年12月には、CLCが石巻市から運営を受託した「制度だけでは支えきれない人を支える」グループホーム型の、福祉仮設住宅「石巻・開成のより処あがらいん」にその機能を移した。

③「あがらいん」の取り組みや「ひなたぼっこ」の機能

「石巻・開成のより処あがらいん」が石巻市から運営を受託した理由は、石巻市内で共同支援ネットワークの活動を行ったことがきっかけとなったが、その背景には、CLC が仙台市内で緊急時に生活の場の提供と必要な課題に対応する「国見・千代田のより処ひなたぼっこ」の経験を活かした運営を、という理由もあった。

あがらいん・地域食堂

「ひなたぼっこ」の活動は、従来の制度では対応することが困難な高齢者、障害者、子ども、生活困窮者等の緊急受け入れ（一時生活支援）及び相談支援を行っている。たとえば自宅が火災に遭って焼け出されたという人、朝起きたら二人暮らしの父親が亡くなって取り残されていた知的障害の人など、さまざまな理由で自宅で暮らせなくなった人に利用していただき、「ひなたぼっこ」でふたたび地域で暮らせるように生活を立て直して地域に帰っていく、という実践だ。石巻市でも、「本人の望む暮らしに戻っていく」ことを前提としたグループホーム型の仮設住宅を運営することで、石巻市とその基本方針をたいせつにしながら、活動を続けてきた。

ひなたぼっこ・地域食堂

あがらいん 外観

ひなたぼっこ 外観

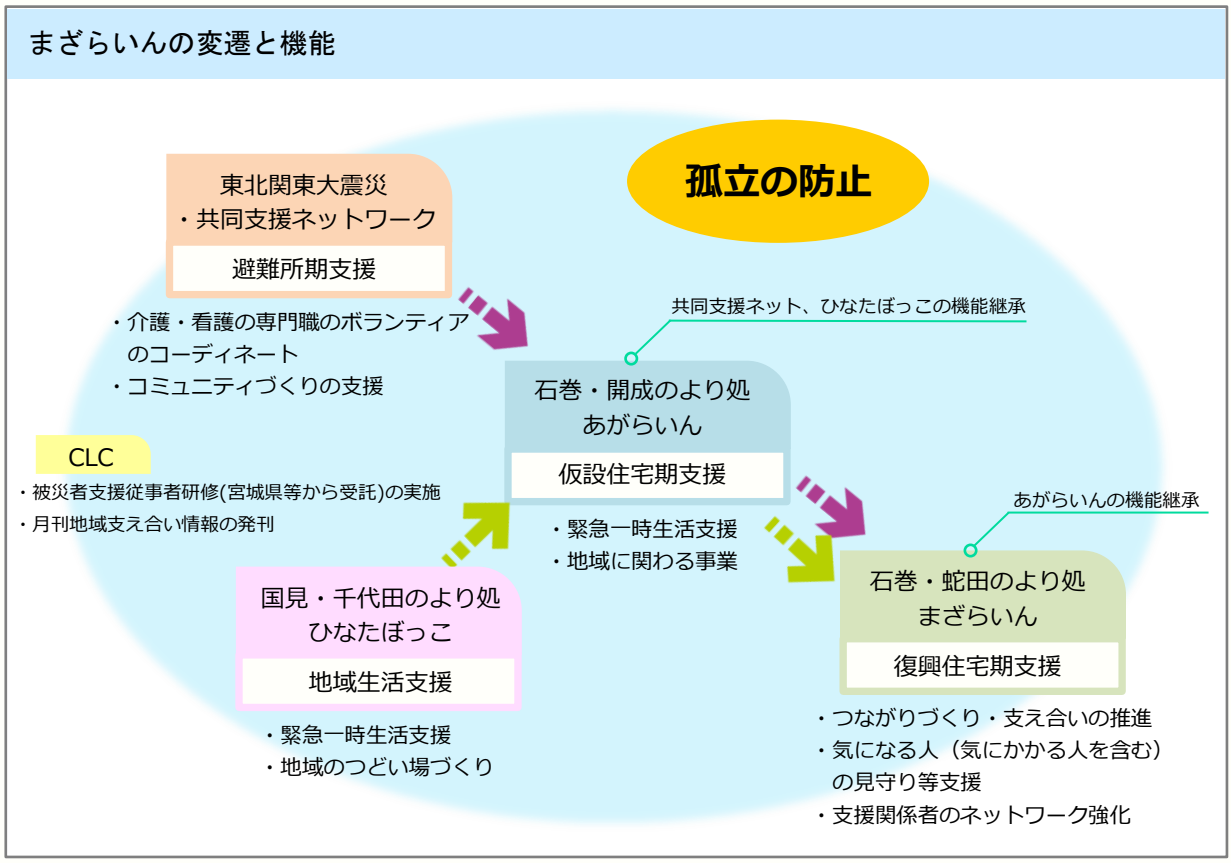
④「暮らし」と「孤立」の関係

東日本大震災の発災後から、被災された方は、避難所から仮設住宅、復興住宅等への転居を繰り返し行い、この 10 年で生活の場が変転してきた。

CLC では、被災者の生活の場の移り変わりに合わせ、「避難所期」「仮設住宅期」「復興住宅期」の 3 つの期間を、これまで「東北関東大震災・共同支援ネットワーク」「石巻・開成のより処あがらいん」「石巻・蛇田のより処まざらいん」と形を変えて、人と人とのつながりを意識した支援を行ってきた。

「避難所期」「仮設住宅期」「復興住宅期」と、それぞれの期間特有の課題に対応する一方で、住民同士のつながりが希薄化して起こる「孤立」という課題に、常に向き合い、また、改めて支援の必要性を実感してきた。

「孤立」は、高齢者等の心身機能の低下をはじめ、さまざまな生活課題の原因となっている。生活の変化による日常的なつながりの希薄化は、個別の支援のみでは対応することが難しく、住民の生活に寄り添い、つながりをたいせつにした支援を行うことで、この 10 年間、被災者の孤立防止を目指してきた。



第２章　活動地域

１．　蛇田地区復興住宅マップ

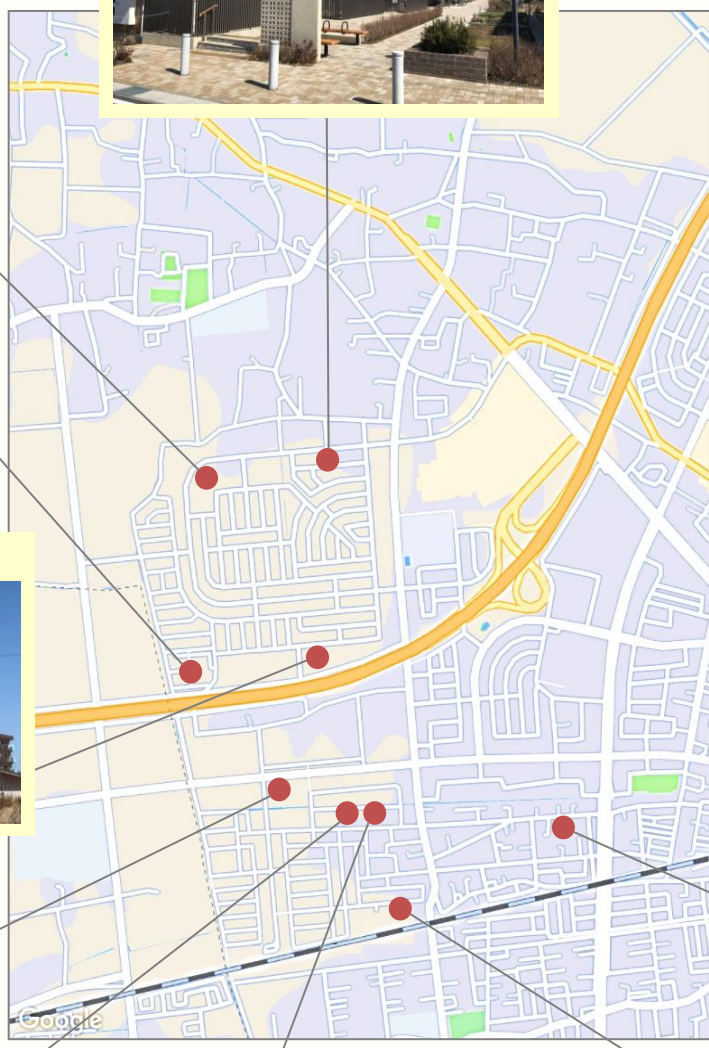
▶ ①新立野第一復興住宅

▶ ②新立野第二復興住宅

▶ ③新沼田第一復興住宅

▶ ④新沼田第二復興住宅

▶ ⑤新西前沼第一復興住宅

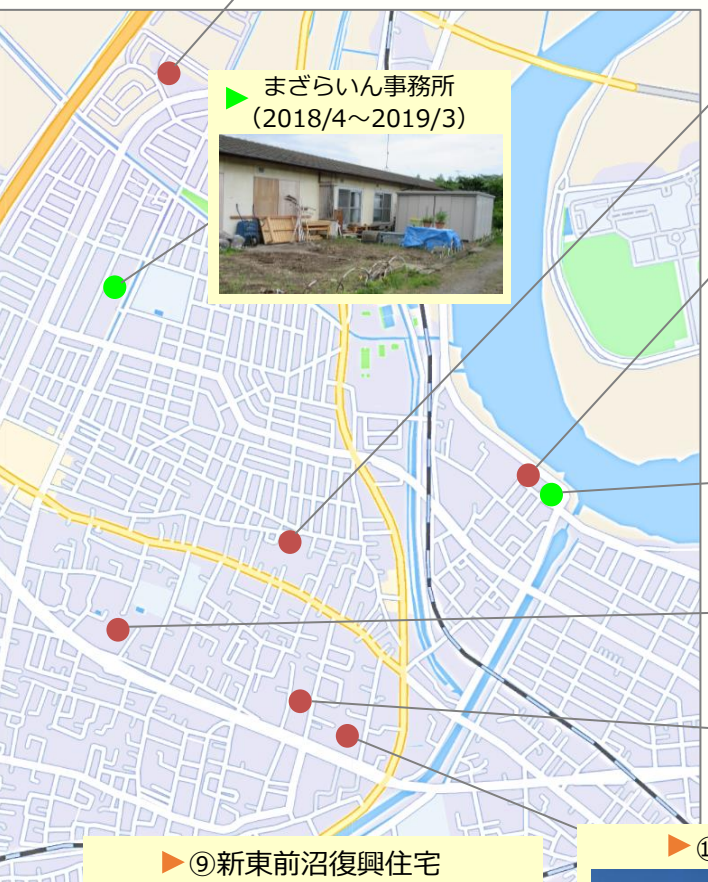


▶ ⑦新西前沼第三復興住宅　1,2 号棟

▶ ⑧新西前沼第三復興住宅　3 号棟

▶ ⑩あけぼの北復興住宅

▶ ⑫丸井戸復興住宅



▶ まざらいん事務所
（2018/4～2019/3）

▶ ⑪新西境谷地復興住宅

▶ まざらいん事務所
（2019/4～2021/3）

▶ ⑬上中埣復興住宅

▶ ⑭中埣復興住宅

▶ ⑨新東前沼復興住宅

▶ ⑮下中埣復興住宅

▶ ⑥新西前沼第二復興住宅

蛇田地区復興住宅

復興住宅数：15（43 棟）

団地会数：19

管理戸数：1,228 戸

入居戸数：1,155 戸（2020.12 月時点）

２．活動地域　～復興住宅ごとの情報～

①新立野第一復興住宅

所 在 地	石巻市のぞみ野４丁目 23
棟　　数	８（A～H 棟）
管理戸数	232 戸
入居戸数	218 戸（2020.12 月時点）
団地会数	5
町内会名	のぞみ野第４町内会

団地での活動：移動サロン(P21)、外出サロン(P22)、地域食堂手伝い(P23)、戸別訪問

②新立野第二復興住宅

所 在 地	石巻市のぞみ野２丁目 3-1
棟　　数	８（1～8 棟）
管理戸数	102 戸
入居戸数	98 戸（2020.12 月時点）
団地会数	1
町内会名	のぞみ野第２町内会

団地での活動：移動サロン(P21)、外出サロン(P22)、戸別訪問

③新沼田第一復興住宅

所 在 地	石巻市のぞみ野５丁目 12
棟　　数	４（A～D 棟）
管理戸数	121 戸
入居戸数	117 戸（2020.12 月時点）
団地会数	1
町内会名	のぞみ野第３町内会

団地での活動：移動サロン(P21)、外出サロン(P22)、仕事づくり工房(P22)、夏祭り手伝い(P23)、戸別訪問

④新沼田第二復興住宅

所 在 地	宮城県石巻市のぞみ野１丁目１０
棟　　数	2（1,2 棟）
管理戸数	80 戸
入居戸数	76 戸（2020.12 月時点）
団地会数	1
町内会名	のぞみ野第 1 町内会

団地での活動：移動サロン(P21)、戸別訪問

⑤新西前沼第一復興住宅

所 在 地	石巻市あゆみ野 4 丁目 17
棟　　数	3（A～C 棟）
管理戸数	207 戸
入居戸数	195 戸（2020.12 月時点）
団地会数	1
町内会名	あゆみの町内会

団地での活動：移動サロン(P21)、仕事づくり工房(P22)、夏祭り、収穫祭手伝い(P23)、戸別訪問

⑥新西前沼第二復興住宅

所 在 地	石巻市あゆみ野 1 丁目 1
棟　　数	3（1～3 棟）
管理戸数	120 戸
入居戸数	118 戸（2020.12 月時点）
団地会数	1
町内会名	あゆみ野駅前町内会

団地での活動：移動サロン(P21)、戸別訪問

⑦新西前沼第三復興住宅 1,2 号棟

所 在 地	石巻市あゆみ野 3 丁目 6-3
棟　　数	2（1,2 棟）
管理戸数	30 戸
入居戸数	23 戸（2020.12 月時点）
団地会数	1
町内会名	あゆみ野中央町内会

団地での活動：移動サロン(P21)、イベント手伝い(P23)、戸別訪問

⑧新西前沼第三復興住宅 3 号棟

所 在 地	石巻市あゆみ野 3 丁目 6-1
棟　　数	1
管理戸数	32 戸
入居戸数	25 戸（2020.12 月時点）
団地会数	1
町内会名	あゆみ野中央町内会

団地での活動：移動サロン(P21)、戸別訪問

⑨新東前沼復興住宅

所 在 地	石巻市新東前沼 241-1
棟　　数	1
管理戸数	26 戸
入居戸数	25 戸（2020.12 月時点）
団地会数	1
町内会名	親和会

団地での活動：外出サロン(P22)、戸別訪問

⑩あけぼの北復興住宅

所 在 地	石巻市あけぼの北 2 丁目 1-1
棟　　数	5（A～E 棟）
管理戸数	162 戸
入居戸数	147 戸（2020.12 月時点）
団地会数	1
町内会名	あけぼの北町内会

団地での活動：夏祭り手伝い(P23)、戸別訪問

⑪新西境谷地復興住宅

所 在 地	石巻市新境町 1 丁目 2
棟　　数	2（1,2 棟）
管理戸数	18 戸
入居戸数	17 戸（2020.12 月時点）
団地会数	1
町内会名	境谷地町内会

団地での活動：外出サロン(P22)、親睦会(P22)、戸別訪問

⑫丸井戸復興住宅

所 在 地	石巻市丸井戸 2 丁目 1-26
棟　　数	1
管理戸数	35 戸
入居戸数	34 戸（2020.12 月時点）
団地会数	1
町内会名	丸井戸第 1 町内会

団地での活動：移動サロン(P21)、戸別訪問

⑬上中埣復興住宅

所 在 地	石巻市蛇田上中埣 84
棟　　数	1
管理戸数	29 戸
入居戸数	29 戸（2020.12 月時点）
団地会数	1
町内会名	上第 1 区

団地での活動：戸別訪問

⑭中埣復興住宅

所 在 地	石巻市蛇田中埣 53-2
棟　　数	1
管理戸数	20 戸
入居戸数	19 戸（2020.12 月時点）
団地会数	1
町内会名	中埣第 1 区

団地での活動：一斉清掃手伝い、戸別訪問

⑮下中埣復興住宅

所 在 地	石巻市蛇田字下中埣 21-4
棟　　数	1
管理戸数	14 戸
入居戸数	14 戸（2020.12 月時点）
団地会数	1
町内会名	中埣第 1 区

団地での活動：一斉清掃手伝い、戸別訪問

第３章　活動実績

１．活動概要

蛇田地区の復興住宅の住民を対象に「つながりづくりの支援・支え合いの推進」「気になる人の支援」「支援関係者とのネットワークの強化」を柱として孤立防止に取り組んできた「まざらいん」であるが、活動の中から見えてくる地域ニーズや、専門職等からの要望を取り入れ、また、2020（令和 2）年からは、コロナ禍に即した対応を取りながら、以下の活動を行ってきた。

『つながりづくりの支援・支え合いの推進』

＜つながりづくりの支援＞

① サロンの実施（実績は、P21,22 参照）

・復興住宅ごとに、集会所や屋外共用スペースを利用して、サロンを開催し、参加者のつながりが強くなるように努めた。また、住民からの要望を取り入れ、外出サロンも実施した。サロン内で、生活上の悩みや課題を聞いた際には、支援機関と共有し、解決に努めた。また、サロンが自主運営につながるよう住民に働きかけてきた。

サロン実施風景
新西前沼第三復興住宅 1,2 号棟

② 仕事づくり工房 ～男の居場所づくり～（実績は、P22 参照）

・復興住宅住民の得意分野を活かし、地域の中で活躍の場をつくった。2019（平成 31）年には、新沼田第一復興住宅の住民と、コミュニティベンチづくりを行い、完成したベンチは集会所前に設置され、今でも団地内外の方に利用されている。

コミュニティベンチづくり
新沼田第一復興住宅

③ 仕事づくり工房 ～まざらいん農園～（実績は、P22 参照）

・まざらいんの事務所の一画を畑として整備し、近隣の復興住宅の住民と一緒に野菜づくりを行った。農に詳しい住民には、土づくりから関わっていただいた。収穫した野菜は、サロンや親睦会で活用した。

まざらいん農園

えだまめ交流会
（まざらいん事務所）

④ 親睦会（実績は、P22 参照）

・まざらいんの事務所内の茶の間等を開放し、復興住宅や、その周辺地域の住民と親睦を深めるために親睦会を開催した。蕎麦やうどん等を提供し、食をとおした交流を行うことで、より深い関係性が生まれることを意識した。

親睦会
（まざらいん事務所）

⑤ 他団体主催のイベントへの協力（実績は、P23 参照）

・団地会や町内会、蛇田地区で活動する団体等と協力し、イベントを実施した。参加者との交流や、他団体とのネットワークの強化をねらいとした。石巻じちれんが主催する地域食堂では、子育て世代のお母さんとその子どもや高齢者等が集まり、世代を超えた交流の場を提供することができた。

のぞみ野地域食堂
（新蛇田第一集会所）

＜支え合いの推進＞

① 地域づくりと支え合いの勉強会

（実績は、P24 参照）

・復興住宅住民や、その周辺地域の住民等を対象に、団地のコミュニティづくりに関する、先進事例や手法、考え方等を学ぶ勉強会を開催した。自分の住んでいる地域で孤立を防止するための、土壌づくりとなることを目的とした。また、参加した住民と同じ視点で地域づくりが行われるよう、関係機関の専門職等にも受講していただいた。

ご近所クリエーター酒井保氏 講演風景
（新立野第二復興住宅集会所）

① 地域資源マップづくり

（実績は、P24 参照）

・暮らしの中のつながり（お宝）を、参加者が自ら発見し、そのたいせつさを意識することで、つながりを切らない地域づくりを学ぶ「お宝探し講座」を開催した。ほかの参加者のお宝も共有し、互いに評価し合うことで、自分が地域で「あたりまえのこと」として行っている活動に価値を見い出す機会となった。

お宝探し講座 演習風景
（新蛇田第一集会所）

② お宝発表会

（実績は、P24 参照）

・お宝を、多くの住民や専門職等と共有し合う「お宝発表会」を開催した。復興住宅の住民がお宝を発表し、東北福祉大学の高橋誠一教授に評価・表彰してもらい、また、多くの参加者に自慢することで、暮らしの中のつながりのたいせつさを参加者全員で共有した。

蛇田地区のお宝発表会 表彰者
（向陽地区コミュニティセンター）

② 情報紙の発行（実績は、P25 参照）

・復興住宅や、その周辺地域の住民の活動を紹介する情報紙を、隔月発行し蛇田地区の住宅へ配付した。また、コロナ禍においては、サロン活動が休止となったため、臨時号を増刊発行し、蛇田地区の復興住宅を情報紙を手配りしながら全戸訪問し、住民の近況や困りごとなど話をよく聞いて、見守りを行った（情報紙は、巻末資料 P38 参照）。

『気になる人の支援』

① 気になる人への支援（実績は、P26 参照）

・孤立しがちで、専門職等の支援機関とも関係性が薄い人を「気になる人」として継続的に見守った。要介護状態となることを未然に予防し、必要と判断した場合には支援機関につないだ。コロナ禍となる前は、サロン等の活動をとおして「気になる人」の見守りを行っていたが、コロナ禍においては、感染症拡大防止のためサロン活動を自粛し、戸別訪問で見守ってきた。

コロナ禍の見守りの様子

② 緊急一時生活支援（実績は、P26 参照）

・蛇田地区の復興住宅の住民と石巻市内の住民を対象に、緊急に自宅以外の場での生活支援が必要な人の受け入れを行った。(1～2 泊程度) 相談支援機関や行政の各担当との情報の共有や連携を図りながら取り組み、必要な場合は、自宅に戻ってからも継続して見守った。

まざらいん事務所内
利用者用スペース

『支援関係者とのネットワークの強化』

○ 各種支援機関との連携

・蛇田地区に関わる行政機関のほか、医療や福祉などの支援機関と連携をして住民を支援するために、各種会議に参加し、気になる人の情報共有や支援の方法等について話し合いを行った。

２．活動別実施実績

『つながりづくりの支援・支え合いの推進』

＜つながりづくりの支援＞

①-1 団地集会所等を利用したサロンの実施

年度	復興住宅	回数	参加人数(のべ)
2018	新立野第一復興住宅	34	400
	新立野第二復興住宅	11	69
	新沼田第一復興住宅	30	267
	新沼田第二復興住宅	7	31
	新西前沼第一復興住宅	17	71
	新西前沼第二復興住宅	8	89
	新西前沼第三復興住宅 1,2 号棟	17	233
	丸井戸復興住宅	3	38
	ウェルシア薬局(あけぼの北復興住宅)	6	25
	小計	133	1,223
2019	新立野第一復興住宅	48	553
	新立野第二復興住宅	22	251
	新沼田第一復興住宅	33	287
	新沼田第二復興住宅	1	5
	新西前沼第一復興住宅	21	116
	新西前沼第二復興住宅	8	72
	新西前沼第三復興住宅 3 号棟	6	36
	ウェルシア薬局(あけぼの北復興住宅)	4	7
	小計	143	1,327
2020	新立野第一復興住宅	2	18
	新立野第二復興住宅	15	261
	新沼田第一復興住宅	5	43
	新西前沼第一復興住宅	10	76
	新西前沼第三復興住宅 1,2 号棟	1	20
	新西前沼第三復興住宅 3 号棟	9	69
	小計	42	487
合計		318	3,037

（※2020年度は、県内の新型コロナウイルス感染症の発生状況を考慮した開催状況となった）

① -2 外出サロンの実施

年度	実施内容 ／ 対象	回数	参加人数(のべ)
2018	鹿島台互市 ／ 下中埣・のぞみ野・あゆみ野住人	1	3
	小計	1	3
2019	登米・南三陸・石巻ドライブ ／新立野第一・第二復興住宅	1	13
	小計	1	13
2020	雄勝・女川ドライブ ／ 新立野第二復興住宅	1	7
	雄勝・女川ドライブ ／ 新沼田第一復興住宅	1	2
	女川港で釣り ／新立野第一・第二復興住宅	1	3
	牡鹿・女川ドライブ ／ 新立野第一復興住宅	1	7
	石巻ドライブ ／ 新東前沼復興住宅	1	3
	雄勝港で釣り ／ 新立野第一・第二復興住宅	1	2
	松島ドライブ ／ のぞみ野地域	1	17
	鮎川ドライブ ／ 新西境谷地復興住宅	1	4
	小計	8	45
合計		10	61

（※2020年度は、「①-1 団地集会所等を利用したサロン」ができない分、外出サロンを多く行った）

② ③ 仕事づくり工房の実施

年度	実施内容 ／ 開催場所	回数	参加人数(のべ)
2018	男の料理教室 ／ 新沼田第一復興住宅	1	23
	合計	1	23
2019	コミュニティベンチづくり ／ 新沼田第一復興住宅	1	23
	豚汁づくり ／ 新沼田第一復興住宅	1	11
	カレーライスづくり ／ 新西前沼第一復興住宅	1	17
	あゆみ野多世代交流会 ／ 新西前沼第一復興住宅	1	27
	小計	4	78
合計		5	101

（※2020年度は、県内の新型コロナウイルス感染症の発生状況を考慮し、開催しなかった）
（※③まざらいん農園は、随時開催していた）

④ 親睦会

年度	開催場所	回数	参加人数(のべ)
2019	まざらいん事務所	21	231
2020	まざらいん事務所	10	94
合計		31	325

（※2020年度は、県内の新型コロナウイルス感染症の発生状況を考慮した開催状況となった）

⑤ 他団体との協働型サロンとイベントへの協力

年度	イベント ／ 場所	回数	参加人数(のべ)
2018	集会所運営委員会・お茶会 ／ 新蛇田第一集会所	12	59
	のり巻づくり ／ 新蛇田第一集会所	1	24
	ボンボンカフェ夏祭り ／ 新蛇田第一集会所	1	36
	ボンボンカフェで駄菓子販売 ／ 新沼田第二復興住宅	22	153
	あゆみ野夏祭り ／ 新西前沼第 1・2 復興住宅	1	200 以上
	夏祭り ／ 新のぞみ野第三町内会	1	200 以上
	自分の健康は自分で守ろう ／ 新沼田第一復興住宅	1	30 以上
	収穫祭 ／ 新西前沼第一復興住宅	1	150
	お茶会等 ／ 新西前沼第三復興住宅 1,2 号棟	2	125
	なんでも相談会 ／ 新西前沼第三復興住宅 1 号棟	1	12
	豚汁づくり ／ 仮設蛇田西部第1団地集会所	1	24
	のぞみ野地域食堂 ／ 新蛇田第一集会所	4	206
	小計	**48**	**1,219以上**
2019	わかば会お茶会 ／ 向陽町	1	20
	ボンボンカフェ夏祭り ／ 新立野蛇田第一集会所	1	36
	あゆみ野夏祭り ／ 新西前沼第 1・2 復興住宅	1	500 以上
	のぞみ野第三町内会夏祭り ／ のぞみ野第三町内	1	100
	あけぼの北町内会夏祭り ／ あけぼの北町内	1	70
	自分の健康は自分で守ろう ／ 新沼田第一復興住宅	1	30 以上
	収穫祭 ／ 新西前沼第一復興住宅	1	150
	のぞみ野みんなの秋祭り ／ のぞみ野地区	1	680
	公園清掃 ／ あゆみ野東公園	1	70
	天城流湯治法協会 ／ 新西前沼第三復興住宅 2 号棟	1	19
	ふれあい交流会 ／ 新西前沼第三復興住宅 2 号棟	1	60
	忘年会 ／ 新西前沼第三復興住宅 1,2 号棟	1	30
	ヘアーカット ／ 新西前沼第三復興住宅 1,2 号棟	1	27
	あゆみ野地域食堂 ／ 新西前沼第一復興住宅	1	13
	のぞみ野地域食堂 ／ 新蛇田第一集会所	12	595
	雲井和之助 独演会 ／ まざらいん事務所内	1	7
	小計	**27**	**2,407以上**
2020	学生交流お茶会 ／ 新西前沼第三復興住宅1・2 号棟	1	50 以上
	フィーリングアーツ ／ 石巻グランドホテル	1	2
	のぞみ野地域食堂 ／ 新蛇田第一集会所	6	158
	小計	**8**	**210以上**
合計		**83**	**3,564以上**

（※2020年度は、県内の新型コロナウイルス感染症の発生状況を考慮した開催状況となった）

＜支え合いの推進＞

① 地域づくりと支え合いの勉強会 / ② 地域資源マップづくり / ③ お宝発表会

年度	勉強会 ／ 講師	回数	参加人数(のべ)
2018	《地域づくりと支え合いの勉強会》 活き！生き！元気！健康寿命をのばす3つのポイント ／ ご近所福祉クリエーター 酒井保	2	27
	《地域づくりと支え合いの勉強会》 むすぶ手・つなぐ手・ホンモノの支え合いづくり ・5つのポイント ／ ご近所福祉クリエーター 酒井保	1	16
	《地域づくりと支え合いの勉強会》 災害公営住宅の住民の支え合い活動と地域との協働 ／おたがいさまねっと公田町団地理事長 有友フユミ	1	13
	小計	**4**	**56**
2019	《地域づくりと支え合いの勉強会》 「蛇田地区の支え合い・つながりづくりを考える」 ～宝塚市の被災者支援の取り組みから～ ／ 宝塚市社会福祉協議会常務理事 佐藤寿一	1	30
	《地域資源マップづくり》 蛇田のつながりを考える懇談会 ～身近なつながりを掘り起こそう！ ／ 全国コミュニティライフサポートセンター理事 高木崇衣	2	44
	《お宝発表会》 蛇田のお宝発表会 ／ 東北福祉大学教授 高橋誠一	1	40
	小計	**4**	**114**
合計		**8**	**170**

（※2020年度は、県内の新型コロナウイルス感染症の発生状況を考慮し、開催しなかった）

④ 情報紙発行

年度	名称	発行日	配付部数
2018	蛇田地域の情報紙 まざらいん！ 創刊号	6月25日	2,000
	蛇田地域の情報紙 まざらいん！ 第2号	8月25日	2,000
	蛇田地域の情報紙 まざらいん！ 第3号	10月25日	1,800
	蛇田地域の情報紙 まざらいん！ 第4号	12月25日	1,800
	蛇田地域の情報紙 まざらいん！ 第5号	2月25日	2,000
	小計		**9,600**
2019	蛇田地域の情報紙 まざらいん！ 第6号	4月25日	2,000
	蛇田地域の情報紙 まざらいん！ 第7号	6月25日	2,000
	蛇田地域の情報紙 まざらいん！ 第8号	8月25日	2,000
	蛇田地域の情報紙 まざらいん！ 第9号	10月25日	2,000
	蛇田地域の情報紙 まざらいん！ 第10号	12月25日	2,000
	蛇田地域の情報紙 まざらいん！ 第11号	2月25日	2,000
	小計		**12,000**
2020	蛇田地域の情報紙 まざらいん！ 第12号	4月25日	2,000
	蛇田地域の情報紙 まざらいん！ 臨時号	5月25日	1,800
	蛇田地域の情報紙 まざらいん！ 第13号	6月25日	2,000
	蛇田地域の情報紙 まざらいん！ 臨時号	7月25日	1,500
	蛇田地域の情報紙 まざらいん！ 第14号	8月25日	1,800
	蛇田地域の情報紙 まざらいん！ 臨時号	9月25日	1,500
	蛇田地域の情報紙 まざらいん！ 第15号	10月25日	1,800
	蛇田地域の情報紙 まざらいん！ 臨時号	11月25日	1,500
	蛇田地域の情報紙 まざらいん！ 第16号	12月25日	1,800
	蛇田地域の情報紙 まざらいん！ 臨時号	1月25日	1,500
	蛇田地域の情報紙 まざらいん！ 第17号	2月25日	1,800
	小計		**19,000**
合計			**40,600**

（※2020年度は、情報紙を手配りしながら訪問して見守りを行うために、毎月発行した）

『気になる人の支援』

① 気になる人への支援

年度	分類	訪問の頻度	人数(月平均)
2018	支援が必要な人	-	15
2019	支援が必要な人	-	22
2020	気になる人(～4月)	週1回～月2回	11
	(1)支援が必要な人(5月～)	週１回	4
		２週に１回	
	(2)気になる人Ⅰ(5月～)	月に１回	5
	(3)気になる人Ⅱ(5月～)	２ヶ月に１回	67
		３ヶ月に１回	

(※2020年度は、全戸訪問を行い、住民の様子を見守ったため件数が増加した)

② 緊急一時生活支援

年度	月	期間	件数
2019	6月	3泊4日	1
	6月	3泊4日	1
	12月	2泊3日	1
	小計		3
2020	6月	2泊3日	1
	10月	3泊4日	1
	11月	1泊2日	1
	小計		3
合計			6

(※事務所の移転に伴い、2019 年度より緊急一時生活支援を行った)

『支援関係者とのネットワークの強化』

○各種関係機関との連携

年度	名称	開催頻度	参加回数
2018	蛇田地区エリアミーティング	隔月(～9月までは月1回)	10
	のぞみ野地区支援者ミーティング	月1回(7月～)	9
	いしのまき支援連絡会	月1回(11月～)	4
	被災者健康支援関係者会議	隔月(12月～)	2
	共助型住宅の実務者会議	隔月(2月～)	1
	小計		26
2019	蛇田地区エリアミーティング	隔月1回	6
	蛇田地区エリアミーティング コア会議	隔月1回	6
	のぞみ野地区支援者ミーティング	月1回	11
	いしのまき支援連絡会	隔月1回	5
	被災者健康支援関係者会議	隔月、または、3ヶ月に1回	6
	共助型住宅の実務者会議	月1回	1
	地域包括ケアセンター ケア会議	月1回(必要に応じ随時)	12
	小計		47
2020	いしのまき支援連絡会	随時	1
	のぞみ野・あゆみ野地区支援団体ミーティング	月1回	12
	石巻市社会福祉協議会との情報共有会	随時	2
	被災者健康支援における関係者会議	随時	2
	共助型担当者会議	随時	4
	多職種連携会議	随時	2
	小計		23
合計			96

（※2020年度は、県内の新型コロナウイルス感染症の発生状況を考慮した開催状況となった）

第４章 コロナ禍における見守りと気にかけ合う働きかけ

１．コロナ禍における見守り

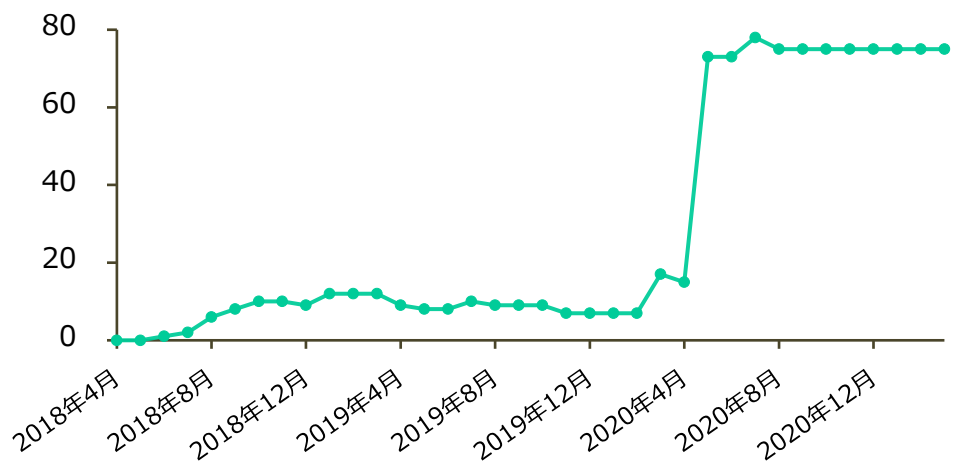
まざらいんでは、事業を受託した 2018 年から、つながりづくりの支援として、サロンや親睦会等、集いの場づくりを行ってきたが、2020 年初頭からの新型コロナウイルス感染症の拡大を防ぐために、2020 年 3 月より、サロンや親睦会等の開催を自粛した。

しかしながら、集会所の閉鎖や、さまざまなイベントの中止が相次ぐなか、交流の機会が少なくなったり、外出の自粛等で暮らしに不安を抱えていないか、孤独を感じていないかと気になり、コロナ禍における感染対策をとりながら、戸別に訪問をすることにした。

訪問の範囲は、蛇田地区の復興住宅全戸を対象とした。戸別に訪問しながら、情報紙を手渡しし、難しい場合は近所の様子を伺い、見守りを行った。全戸訪問には、約 2 ヶ月を要した。

コロナ禍以前は、主にサロンをとおして「気になる人」を把握し、また、関係機関からの依頼もあり、約 20 人を見守りの対象としていた。コロナ禍となり、復興住宅の全戸訪問を行ったあとには「気になる人」が、約 70 人にまで増えていた。これは、自立した生活を送ることが困難な方のみでなく、復興住宅を訪問するスタッフの視点で、隣近所とのつながりが弱いというような「気にかかる人」まで、見守りの対象を広げたためである。

「気になる人（気にかかる人を含む）」の推移



５段階の訪問頻度	判断基準		
	気になることがある	自立した生活	親族や周りとのつながり
① 週に１回	◎	△	×
② ２週に１回	◎	△	×
③ 月に１回	○	△	△
④ ２ヶ月に１回	○	○	△
⑤ ３ヶ月に１回	△	◎	○

気になる人や気にかかる人への訪問の頻度は、週１回～3ヶ月に1回の５段階に分け、住民に直接お話しを伺った時の様子や、ほかの住民からの情報を顧慮し、都度検討した。

全戸訪問したあとも、情報紙を戸別に配付しながら、気になる人や気にかかる人の見守りを行った。

戸別訪問の様子

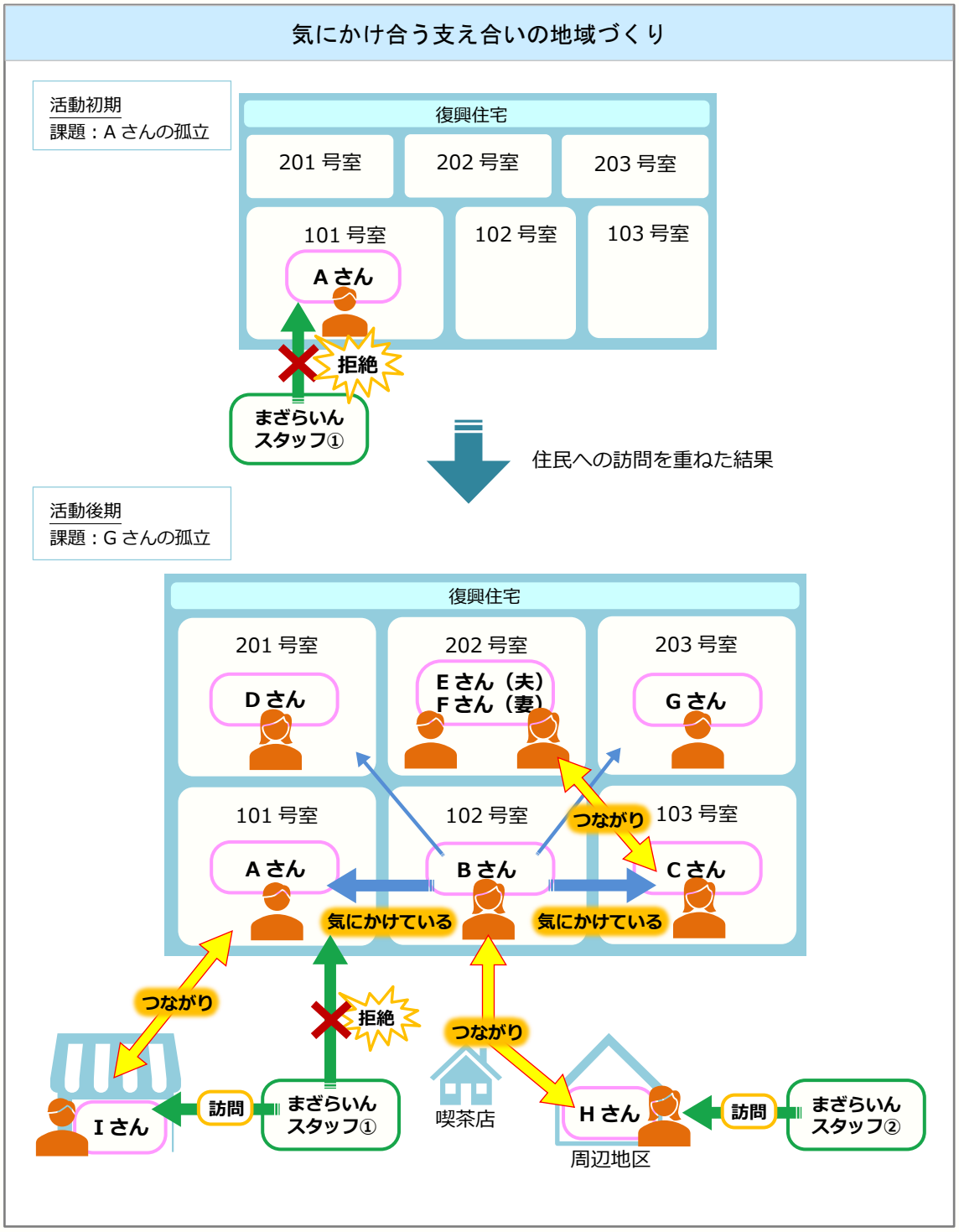
２．気にかけ合う働きかけ

まざらいんのスタッフは、コロナ禍に、戸別訪問をとおして、蛇田地区の復興住宅住民の安否確認を行ってきた。しかし、その住宅に暮らしていないスタッフが、気になる人や気にかかる人だけを訪問して安否確認をするだけでは、最悪の状態の際には気づいてあげられないかもしれない。

生きづらさを抱えた住民の、ちょっとした変化に、速やかに気づくためには、「日ごろから気にかけ合う関係をご近所で育む」こともたいせつな要素のひとつであり、見守り訪問には「ご近所への働きかけ」という役割もあることを心がけながら訪問を行ってきた。

第５章　総評・まざらいんの活動について

１．蛇田地区復興住宅の支援から見えてきたこと



まざらいんは、これまで、住民同士のつながりが希薄化して起こる「孤立」という問題に対応してきた。孤立は、地域の誰にでも起こりえる問題であり、まざらいんが行ってきたサロン、戸別訪問等の活動や、専門機関が行う個別支援だけで解決されるものではない。支援者は、その地域に住んでいないため、定期的な支援のみで孤立を防ぐことは難しく、住民の中に飛び込み、「住民とともにつながりづくり」を行うことがたいせつであるということがわかった。

左図を参考に、これまでの活動を例にあげると、スタッフ①が、復興住宅の 101 号室の A さんを訪問し始めたころは、訪問拒否され、A さんが周りの人との関係性が薄く、孤立しているのではないかと思案していたが、その後、他地域に住む I さんと A さんがつながっていることがわかった。

また、スタッフ②が訪問している H さんが、A さんの隣室 102 号室の B さんと交流があり、B さんが、A さんと C さんを気にかけているということもわかった。

B さんの話から、203 号室の G さんが人との関わりが薄く、見守りが必要な方であることもわかった。

「第 4 章 2.気にかけ合う働きかけ（P29）」でも記載したが、地域から孤立していることが想定される G さんへ見守りを行うと同時に、ご近所で、気にかけ合うよう働きかけ、気になることがあれば、誰かにつなぐよう促すということもたいせつなことと気づいた。

これまでの、まざらいんの活動経験から、支援者がたいせつにすべき、以下の視点が見えてきた。

① 気にかけ合う関係づくりを支援する
- 個々の課題だけを見るのではなく、住民が、まわりの住民を気にかけ、気になることがあれば、誰かにつなぐよう働きかける。

② 個人と地域との関係性を気にかける
- 地域での役割や関係性も把握する
- 地域の中での人と人との関係性を見る

③ 住民の声に耳を傾ける
- 住民に交じり、住民に寄り添い、住民の声なき声（つぶやき）も聞きもらさない。

２．有識者からの提言

○高橋 誠一　東北福祉大学 総合マネジメント学部 教授

東日本大震災から、今年で 10 年を迎えた。石巻・蛇田のより処まざらいんは、石巻市蛇田地区の復興支援として始まり、今その活動に区切りをつけようとしている。そのことは、復興が完了したことを意味しないけれど、今後に向けた住民支援にさまざまな教訓を残したと思う。

まざらいんは、主に蛇田地区に作られた復興公営住宅に暮らす住民の支援を中心に、仮設住宅時代に築き上げてきたつながりが、復興住宅に転居したことで分断されてしまわないよう活動してきた。支援システムとしては、復興公営住宅の住民と、蛇田地区の住民を分けて支援する体制を作る方が合理的と考えられるかもしれない。しかし、それでは復興公営住宅の住民が、地域の住民との距離を広げてしまうことにもなりかねない。せっかく地域の中に復興公営住宅を作ったのであれば、蛇田地区の支援拠点としてまざらいんを位置づけることで、蛇田地区の地域づくりを支援することができる。

地域づくりの支援は、困っている人の支援に偏りがちな福祉専門職の支援に対して、地域での生活を支援するうえで大きな意義がある。震災は、個人だけではなく、地域のさまざまなレベルで地域力を弱めてしまった部分があると思うが、なによりも全体的に地域住民のつながりを弱くしてしまった。それは、まざらいんの運営基盤になっている「石巻市蛇田地区復興公営住宅等の孤立防止事業」という名称に表れている。孤立は、個人の問題としてだけとらえることはできない。地域における社会的な問題としてとらえ支援をしていくことが大切だ。

しかし、コミュニティの再生を支援するうえで、「問題」という見方は地域の力を応援するよりも、外からの介入的な支援になりがちで、かえって地域の力を弱めてしまうことになることが多い。まざらいんは、避難所、仮設住宅での支援の取り組みから、個々の被災者の支援だけでなく、つながりづくり支援の経験を活かして活動している。「つながりの場づくり・支え合いの推進」、「気になる人の支援」、「支援関係者のネットワーク強化」の 3 つの支援活動の柱を立て、それらを一体的に運営することによって、住民の日常生活における自然なつながりを応援し、気にかけ合う関係のなかで、住民同士の支え合いを見守ることができる。日ごろから関わることで緊急事態に対応しても、地域のつながりが切れないように支援している。このような住民の力を信じ寄り添った支援がこれからの地域支援にとっても大切であることを、まざらいんの取り組みから学ぶことができるのではないだろうか。

巻末資料

１．蛇田地区住民からのメッセージ

西前沼（共助型）第三復興住宅１・２号棟 団地会会長 阿部 昌則さん

１）「まざらいん」との関わりで、気づいたことや思ったこと

2018（平成 30）年 5 月から、新西前沼第三復興住宅に順次入居とあわせ、復興住宅の中庭で「お茶っこ」会を開催してもらいました。当時、「えっ？外でお茶会？」と思いましたが、入居した多くの皆さんが参加して、皆さんとの交流の場として、月 2 回開催していただきました。

8 月から、移動サロンの名称で継続した交流の場で、知らない人同士の復興住宅での悩みや住民同士の交流に大きな力を注いでもらいました。

共助型復興住宅とは？…等々、私たち入居者の立場で一緒に悩み、考えていただきました。また、復興公営住宅内での問題についても、自分たちのことのように受け止めてもらいました。入居している方の中には、今現在でも『まざらいん』さんに全幅の信頼を寄せている方もおり、声を大にして伝えたいと思います。

２）「まざらいん」へ一言

私たち、復興住宅入居者の交流や悩みに親身になり対応してもらいありがとうございます。私たち、共助型復興住宅に住む者として今まで指導していただいたことを元に生活していくつもりでおります。

長い間、本当にありがとうございました。

新立野第一復興公営住宅 鈴木 明美さん

１）「まざらいん」との関わりで、気づいたことや思ったこと

私は多発性硬化症という難病患者です。そのため、転居後の復興住宅では、まず自分を知ってもらうことからはじめ、その中で「まざらいん」との出会いがありました。毎月のお茶会ではたくさんの仲間ができて私の楽しみとなり、いつもは支えられる立場の私が、誰かを支える側に回るという経験もさせていただきました。

また、参加は無理だと諦めていた「紅葉を見る会」等の外出も、仲間や「まざらいん」のサポートで実現することができ、皆さんに感謝しています。

行事参加にあたり、障がいがあってもそのことを意識させないさり気ない気配りや特別視しないスタッフの言動は、私にとって心地良く過ごせる空間でした。この空間と時間が無くなってしまうのは、仕方の無いこととはいえ本当に淋しい限りです。さまざまな地域から入居者が集まった復興住宅で、住人の親睦を深めるには「まざらいん」の名そのままの活動が住人にとって大事な存在でした。

2）「まざらいん」へ一言

長い間私たちに寄り添い、毎月のお茶会やその中での海苔巻き作り、クリスマス会、新年会、各ツアーやまざらいん事務所での親睦会などたくさんの暖かい思い出をありがとうございます。そしてお疲れさまでした。どこかで私を見かけたら、どうぞお声をかけていただけたら幸いです。その日を楽しみにしています。

新立野第二復興住宅 今野 秀子さん

1）「まざらいん」との関わりで、気づいたことや思ったこと

私は、震災後に蛇田を終の棲家と決めて住んだものの、各市町村内外の知らない人ばかり。しばらくの間気持ちが沈み、こんなはずではないと…

そんななか、認知症の勉強会があると聞いて参加することに。その後、2017（平成29）年2月に、互助活動ができる見守り、つながりパートナー「パル」の会員になりました。

いろいろな活動のなかで、少しずつ友達の輪ができた。そんな中、住民同士でのり巻を作って食べる計画があると聞かされて、初めて蛇田のより処まざらいんの名前を知りました。印象としては、物怖じしないで、明るく、的確に指示してくれた。その後は、新立野第二集会所でお茶会を中心として、いろいろと計画を立てて楽しませてくれました。お花見、松島への紅葉、復興地の見学などなど。お茶会は笑いの絶えない何十年も会っている友達のような…時間でした。感謝、感謝、感謝。

2）「まざらいん」へ一言

まざらいんのお茶会は、長いようであっという間に3年も過ぎましたネ。

スタッフのみなさんは、参加者に寄り添って、話す、聞く、やさしく互助共助的活動のすばらしさに感動していました。

石巻のまざらいんのお茶会解散は淋しいですが、今度は自分たちで見守りながら、お茶会を継続していくつもりです。

長い間ありがとうございました。そしてご苦労様でした。

新沼田第一復興住宅 会計総務 樋口 恵さん

1）「まざらいん」との関わりで、気づいたことや思ったこと

気づけば震災から10年。新転地となる復興住宅に移り、「まざらいん」の皆さんと絆、つながりを持つことができました。あの震災で受けた傷は、人それぞれ違います。その傷を少しでも和らげてくれるのに一役も二役もかってくれたのが「まざらいん」の皆さんだと思います。

震災前と違う所に住み、生活形態も変わった人もいたでしょう。近所づきあいや外出することすら難しくなり、重いドアを開ける勇気を持てずにいた人も少なくなかったと思います。そんな時にドアをたたき声を掛けてもらうことによって、集会所などでの交

流会やお茶会等々へ出不精気味の住人さんに参加をうながしていただき、ここに来ると大笑いできる、楽しいと喜んでくれた住人さんの輪もできて、皆で楽しい時間を持つことができました。ただ、少々残念なのが参加する人がいつも同じになってしまったこと。自分も楽しいから来れば皆も楽しいのに、もったいないなと思いつつ最後の交流会の日を楽しみにしています。

2）「まざらいん」へ一言

テレビのコマーシャルでも言っていますが、「人は出会いと別れを繰り返して成長していく」別れはさみしいと思うけど、また会いましょう。

ありがとうございます。おつかれさまでした。

あゆみの町内会副会長 兼 新西前沼第一復興住宅集会所管理者 草島 真人さん

1）「まざらいん」との関わりで、気づいたことや思ったこと

新しい地域づくりをする上で、人と人のつながりを築いて行くことは、日常的な会話や交流があって初めて成り立って行くものだと感じています。

「まざらいん」は地区の集会所を利用して月 1 回程度お茶会を開催していましたが、その時に声がけ支援も行ったことは、ほかのお茶会とは違い参加者との距離が近くなる良いことだと思いました。

人は自分の行動や言葉を肯定してくれる場所や機会があることで、日々の生活が少し豊かになるように思います。震災から 10 年が経とうとしている今の時期に活動を終えるのは残念に思います。

2）「まざらいん」へ一言

あゆみ野地区は、広い地域から人が集まり統一性がないなかでの活動は、一人ひとりと向き合っての活動となり苦労は多かったと思います。「今までご苦労様でした」また、「本当にありがとうございました」終わりは新しいスタートであるので、今後各自良いスタートを切ってください。

新東前沼復興住宅 伊藤 つる子さん

1）「まざらいん」との関わりで、気づいたことや思ったこと

昨年、外出サロンで、雄勝や内海橋を見学させていただきまして、大変楽しい 1 日を過ごすことできました。ようやく春になると思った矢先に、まざらいんの終了を知りました。住人同士での集まりを楽しみにしていたところですが、残念です。機会がありましたら、またお誘いください。

2）「まざらいん」へ一言

東前沼で開催したサロンの参加者は少なかったけれど、まざらいんの方々には、いろいろと勉強を教えていただきました。本当にありがとうございます。

新西境谷地復興住宅 木村 文雄さん

1）「まざらいん」との関わりで、気づいたことや思ったこと

震災から 10 年、復興住宅に入居して 6 年が経過いたしました。当住宅は団地としては 18 世帯と少なく、集会所も存在しないこともあって入居者間の相互交流はほとんどありませんでした。

しかし 2019 年の春、近くに「まざらいん」の事務所が移転してきたことによって状況に変化がありました。さまざまな行事を私たちに提供してくれ、その中でも毎月開催される昼食を食べながらの親睦会に参加することが、いつしか唯一の楽しみとなっていました。

私を初め一人暮らしのお年寄りが多く、孤立しがちですが、いろいろな話をし励ましを受け心の支えとなり、生きる力となりました。復興はまだまだですが、ハード面より被災者の心のケアが必要だと思います。そんな中でまざらいんの果たす役割は非常に大きく、3 月末で閉鎖と聞き残念でなりません。今後は何ができるかわかりませんが、自分たちで力を合わせよりよい方向に向かって行きたいと思います。

2）「まざらいん」へ一言

これまでの温かいご支援に感謝いたしますとともにスタッフの皆さんの御健勝と御多幸を心からお祈り申し上げます。

2．蛇田地区関係機関からのメッセージ

復興庁 宮城復興局 石巻支所 石垣 恵理さん

「まざらいん」との関わりで、気づいたことや思ったこと

「まざらいん」の皆様には、これまで東日本大震災で被災した住民の方々との交流活動とともに、地域の孤立しそうな方の見守りや人材育成に継続して取り組んでいただきましたことに、心より感謝申し上げます。被災者に寄り添う活動には、優しさだけではなく、ときには勇気が必要なこともあり、互いの信頼関係づくり等、地道な努力をされてきたと思います。

つながりづくりの移動サロンにはどれくらいの方々が参加し、楽しい時間・癒しの時間を過ごしたのでしょうか。回数を重ねるごとに住民さん同士の距離が近くなり、新しい地域で感じていた不安が少なくなったことと思います。皆さんが種をまいて来られた地域のつながりに、これからも皆で水をやり、大きな花を咲かせてほしいと思います。

石巻市社会福祉協議会 地域福祉コーディネーター 谷 祐輔さん、佐藤 文博さん

「まざらいん」との関わりで、気づいたことや思ったこと

このたびは、蛇田地区における三年間の活動お疲れ様でした。

三年前、復興公営住宅での新しい自治形成が進み、サロンや集いの場づくりが一旦落ち着いた折節での事業開始をうけ、地域に対して「どのようなスタンスで関わり、何を担えるのだろうか」ということを、まざらいんの皆様はとても苦悩しながらも真摯に向き合おうとされていたように思います。そうした状況から始まった取り組みだからか、悩みながら地域と向き合っていくまざらいんの皆様は、コミュニティ支援であっても個別支援であっても、どんなことでも一緒に考えてくれるとても心強い存在でありました。

石巻市蛇田地域包括支援センター 所長 奈須野 京美さん

「まざらいん」との関わりで、気づいたことや思ったこと

復興住宅にお住まいの方は勿論、被災された方々に広くご支援をいただき、本当に有難うございました。もう少し伴走していただけたら嬉しいと感じておりました。

私達、地域包括支援センターとしては介護保険以外で、対応が難しい生活全般の支援にも対応していただけた時には心強く、また、深く感謝いたしました。困った方に手を差し伸べて、皆が楽しく暮らしていけるように手伝うことは団体や地域を超えて共通のものと感じております。

今後もより一層のご活躍をお祈りしております、有難うございました。

（公社）日本医療社会福祉協会 現地責任者 福井 康江さん

「まざらいん」との関わりで、気づいたことや思ったこと

当協会と「まざらいん」さんとの関わりは、前身の「あがらいん」さんからに始まり、復興支援にかかわる同志のような心持ちを感じていました。

昨年度からは復興住宅のサロンに参加させていただきましたが、毎回大きなポットを抱えての準備は大変だったことと思います。その甲斐があり、住民の方々とたくさんおしゃべりができたこと、美味しいおすそ分けをし合えたこと、何より一緒に笑い合えたことは毎回私たちの励みもになりました。永きに渡り本当にありがとうございました。

一般社団法人　石巻じちれん 事務局長 田上 琢磨さん

「まざらいん」との関わりで、気づいたことや思ったこと

「まざらいん」の地域を回っていたスタッフの方達は、「あがらいん」の頃から、地域・住民との距離感がよく、住民さんからも信頼されているな、と感じていました。

地域食堂やあゆみ野夏祭り実行委員会では、一人でいる方を集い場につないでいただきました。人間関係が構築できていない新市街地では、住民さんと支援者が一本の線でつながり、その一本一本を増やしていきながら、同じ場に共存することで輪ができていくのだと思います。

孤立防止事業は、コロナ禍により更に必要な時期なので終了するのは残念ですが、関係の糸を丁寧に紡いでくれるスタッフの方が、別の形で地域に関わってもらえるといいなと思っています。

3 年間おつかれ様でした。

３．蛇田地域の情報紙 まざらいん！

蛇田地区の情報紙 まざらいん！ 臨時号

Ａ４ ２ページ

まざらいんスタッフの楽しみ！

魚種名　マダイ
（稚魚）
日付　2019年7月29日
場所　新石巻漁港
赤灯台付近
大きさ　10㎝

魚種名　セッパ
（スズキ幼魚）
日付　2020年6月7日
場所　万石浦橋
大きさ　35㎝

自分は、魚釣りが趣味です。小さいころからやっていて、釣り歴は20年以上です。

自己流なことや環境が変わったこともあり、最近は釣れないときも多いのですが、疑似餌をいかに本物の小魚や餌に見せるかや、魚が食いついた瞬間から釣り上げるまでの過程が大好きです。

釣れた魚は家で調理して食べるので、家族から喜ばれています！

みなさんの中にも釣りが好きな方、以前は釣りをしていた方、お魚好きな方がいると思います。

ぜひ、魚談義しませんか？　渡辺竜平

移動サロンや親睦会について

現在、休止中の移動サロンを６月後半より感染症に注意しながら順次再開していきます。日程が決まり次第、各団地の掲示板にポスターを掲示していきます。

開催にあったては、下記の感染症対応策を実施いたします。

- ３密となる密集・密接・密着とならないように取り組みます。
- マスクの着用や会場での検温をお願いします。
- 会場入り口に消毒用アルコールを用意しますので、手指の消毒をお願いします。

※感染防止の観点から、発熱など体調不良の症状がある場合は、参加を控えていただくよう、ご協力をお願いします。

移動サロンの開催日程（予定）
- 新立野第二復興住宅団地：毎月第２・４金曜日　14時～16時
- 新西前沼第一復興住宅団地：毎月第２・４火曜日　10時～11時30分
- 新西前沼第三復興住宅団地：毎月第３木曜日　10時～11時30分

お問い合わせ　TEL：0225-24-9910

発行：特定非営利活動法人全国コミュニティライフサポートセンター（CLC）　編集：石巻・蛇田のより処　まざらいん
拠点：石巻市蛇田字西環谷地122 番地 6 号（〒986-0861）　受付時間：月～金　9:00~18:00

蛇田地域の情報紙

まざらいん！

第13号
2020年6月（隔月刊）

我が家の自慢のペット

食べることが大好き！

ママ大好きだにゃ～幸せ♡

新西前沼第一復興住宅
ゴロちゃん
5才　男の子

毎日、夕方の５時になったら、郵便物を見に行こうって、お母さんを誘うの。

ランちゃん～☆

はぁ～い☆

あけぼの北復興住宅
ランちゃん
4才　女の子

ピーちゃんおはよう☆

おはよう～☆

家族の肩や頭の上に乗って、おしゃべりしているよ。

新立野第一復興住宅
ピーちゃん
4才　男の子

この情報紙は「令和２年度 石巻市蛇田地区復興公営住宅等の孤立防止事業」の一環として作成しています。

みなさんのつどい場

沼田第一　移動サロン

みなさんでおしゃべり

教え合いながら記入

コロナウイルスの影響でサロンが中止になっていましたが、再開することになり久しぶりに住人が集まり終始笑顔で楽しんでいました。

寒くなってきたので「みんなで一緒に豚汁を食べたい」と言う声があり、来月は去年作ったベンチを活用して外で豚汁を食べて温まり、秋を楽しむことになりました。

久しぶりに集まりおしゃべり

まざらいん親睦会

９月24日（木）に、まざらいん親睦会を再開し、今回は西環谷地復興住宅の住人４人が参加しました。

同じ住宅同士でもなかなか会う機会がないようで、お互いの自粛期間中の過ごし方を話したりして交流を深めていました。

参加した住人からは「同じ団地の住人同士でも久しぶりに会った」「集会所もなく、ほかの住人と会う機会はないので、まざらいんでつどえてうれしい」との声が聞かれ、楽しんでいただけたようでした。

みなさんの自宅での過ごし方

新西前沼第三復興住宅　石森さん

模型の作り方を話す石森さん

模型各種

石森さんは震災後、自宅で船の模型を作って過ごしています。

高校卒業後すぐに漁船に乗り、陸に上がるまでの約30年間でマグロ船などのいろいろな漁船に乗ったそうです。そのときの漁船の記憶をもとに、写真や設計図は見ないで模型を作っていると話していました。作る際のポイントは、各漁船によって違う漁具などの装備とのことです。

あけぼの北復興住宅　遠藤さん

釣り竿と遠藤さん

イカの塩辛

守谷宗光

遠藤さんは、奥さんと家で魚を刺身用などに捌いたり、イカを買ってきて塩辛を作ったりして過ごしています。

イカの塩辛は生でも冷凍でも胴の大きなイカを買ってきて、身は一度塩で揉み柔らかくしてから水で洗い塩抜きをして作るそうです。

刺身は捌いた後にしっかり水気を取った上で真空状態で保存しておくとのことでした。

その中の一部はお子さんたちに送ることもあるそうです。包丁もこだわりがあり、島根県で買ってきた「守谷宗光」の刺身包丁、出刃包丁、イカ用包丁を駆使して調理しています。

「自宅での過ごし方」を教えてください！

皆さんに教えてもらった暮らしの工夫や楽しみ方を、本紙上で紹介したいと思います。ちょっとした楽しみでもかまいません。お気軽にご連絡ください。

皆さんからの声をお待ちしています！

電　話：0225-24-9910
メール：mazarain@clc-japan.com

たとえば……
- マスクづくり
- 簡単体操
- プランターでの菜園
- オンラインお茶飲み

蛇田地区の情報紙　まざらいん！

Ａ３　二つ折　４ページ

蛇田地区復興公営住宅等の孤立防止事業 石巻・蛇田のより処まざらいん 活動報告書

■発 行 日　2021（令和3）年3月26日
■編・発行　特定非営利活動法人 全国コミュニティライフサポートセンター（CLC）
石巻・蛇田のより処 まざらいん
〒981-0932　宮城県仙台市青葉区木町16-30 シンエイ木町ビル1F
Tel：022-727-8730 / 080-1664-7147 Fax：022-727-8737
Mail：clc@clc-japan.com